

陸産貝類

概 説

絶滅種や希少種の選定には、福井県内で記録のあった全ての種に対して、その証拠となる標本の分類学的な再検討を行ない、その生息地及び生息環境を再調査し、さらに県内全域の生息の現状を把握し、今後の証拠となる新たな標本を採集、あるいは確認・標準化した上で、その生息状況の増減を解析しなければ正確さを記することはできない。

その点で、福井県には過去の記録として、陸産貝類・淡水産貝類の調査記録の纏まったものとしては、黒田(1933)、窪田(1933,1966)、斉藤(1941,1952)、長谷川(1976)があり、陸産及び淡水産の貝類については、継続して調査が実施されている県である。最近では、県内に生息する陸産貝類・淡水産貝類の生息状況の現状を把握するために、1980年度から1983年度までの4年間の第一次「福井県みどりのデータバンク」調査(福井県,1985)、1993年度から1997年度までの5カ年の第二次「福井県みどりのデータバンク」調査(福井県,1998)が長谷川を中心に実施され、陸産及び淡水産貝類の分布域の拡大や縮小等の比較検討を実施している。分布調査は、県内を2Km四方の1179メッシュに区分した台帳に記入し、種の変遷をも記録した。前後2回の調査は、生息確認地点のみならず、生息数、環境変化も視野に入れての調査であり、より希少種を解析する上で精度の高いものとなっていると考えられる。

陸産貝類概説

陸産貝類については、その定義が研究者によって異なるが、福井県の陸産貝類については、亜種を含め4目22科103種が記録されている。この中から、種の特性と種の生息各認地点数、生息地の中山間地振興事業や水資源保安林整備事業、林道や一般道建設、市街化の進捗状況等の地域性を考慮して、県域絶滅は3種、県域絶滅危惧類は4種、県域絶滅危惧類は16種、県域準絶滅危惧は6種を選定した。

ヘソカドガイとウスイロヘソカドガイは、福井市立自然史博物館に四ヶ浦産の標本が残されているが、1966年以降確認されていない。現在の生息状況は、ヘソカドガイが房総以西の暖かい本州以南であり、ウスイロヘソカドガイは、奄美諸島以南が生息地であることから、対馬暖流の影響を受けている四ヶ浦でも生息するとは考えにくい。また、クリイロカワザンショウガイは、高塩性で河口域の沿岸や海岸部の飛沫帯に生息するものであるが、1966年以降生息が確認されていない。県内の護岸工事、新設漁協防波堤、消波ブロック敷設等による自然海岸の生息地の環境変化が要因としてあるものと考えられる。また、ロシアタンカー重油流事故は、越前、若狭の海岸地帯が汚染され、海岸線の上部や潮間帯の生物には多大な影響を与え、生息域の減少に拍車をかけた。現在では絶滅したものと考えられる。

県域絶滅危惧類とした種は、微小貝の1953年以降確認されていないナタネキバサナギガイである。過去50年ほど確認されていないが、調査精度のこともあり、情報不足なので絶滅の断定ができない。その他のヤマクルマガイ、コベソマイマイは、県域絶滅危惧類のアツプタガイと同様、本州中部から以西の本州、四国、九州には普通に生息する種であるが、動物地理学的に東西日本の境界線上にある福井県の嶺南地域にしか生息しないものであり、しかも、若狭地方に限定されている。近年の若狭湾岸の大型プロジェクト工事や、道路建設、中山間地開発等により、生息環境は大きく改変されている。

その他の県域絶滅危惧類は、福井県を模式産地とするニクイロシブキツボ(フクイシブキツボを含む)である。フクイシブキツボは、解剖学的にニクイロシブキツボと連続するものであり地方型としている。ニクイロシブキツボは、他県で生息地が時々確認されてきているが、県内では、模式産地が辛うじて生息しているのみで、しかも生息地は土石採集場として減少の傾向である。絶滅は時間の問題である。フクイシブキツボの模式産地は、道路擁壁の工事のため、生息地が消滅している。キョウトギセルは、他県でも数カ所で生息が確認されているに過ぎない。10年ほど前まで県内でも数地点確認されているが、近年の林道開発や大型開発工事にもない生息地が減少し、生息個体数も激減している。

県域絶滅危惧類では、オオウスイロヘソカドガイも一カ所の洞窟、嶺南地区若狭のみ生息する希少なアツプタガイ、生息地が2地点のヤマメタニシ、水辺の湿潤な河川や堤内地のアシ原、休耕田にしか生息しないナガオカモノアラガイ(カンサイオカモノアラガイ)、石灰岩地帯の固有種のクチマガリスナガイ、約50年ぶりに確認されたヤマトキバサナギガイ、奥越地域の実麗なトノサマガセル、乾燥に耐える構造を持たず、湿潤な所でしか生息できないヤマコウラナメクジ、乾燥に弱いミドリベッコウ、冠山を模式産地とし、数地点しか確認されな

いカンムリレンズガイ，生息域が急激に減少しているココロマイマイ，エチゼンケマイマイ(オウミケマイマイ)，ハクサンマイマイ，冠山のみ生息が確認されているカンムリケマイマイ等を選定している．いずれも，近年の林道開発，砂防ダム建設，水資源保安林整備で，生息地の落葉広葉樹林が伐採され，乾燥化が進行し，生息地が大きく改変されている種ばかりである．極めて移動性に劣る陸産貝類は，環境悪化を回避することができない．生息地の減少そのものが種の絶滅につながる．

県域準絶滅危惧とする種は，県内海岸線上に局所的に生息するヒメオカマメタニシ，山岳地の清涼な環境に生息する希産のクリイロキセルガイモドキ，オクガタギセル，比較的温暖で湿潤な環境を好むオオコウラナメクジ，ケハダビロウドマイマイ，美麗がため収集の対象となるコガネマイマイを選定している．2回の調査の変遷で，急激に生息分布地や確認個体数の激減した種ばかりである．

その他の陸産貝類の生息地や生息個体数も減少傾向にある．敦賀を模式産地とするツルガマイマイやウスカワマイマイは平地に，オオケマイマイ，コオトメマイマイ，クロイワマイマイ，ヤマタカマイマイ等は山地に普通に見られ，微小貝のゴマガイ，ケシガイ，ムシオイガイ，ベッコウマイマイも普通に見られる．ノハラナメクジは増加傾向があり，ウスカワマイマイ，オナジマイマイ，ナミギセルも一般的である．他県と比較して福井県は陸貝の生息状況はまだ辛うじて保全されていると言えよう．

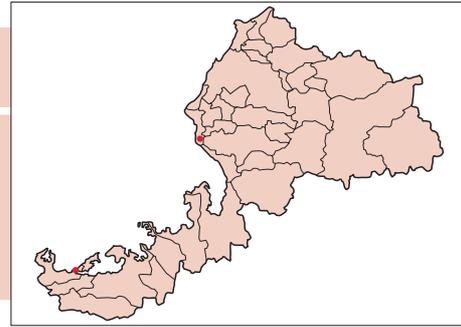
(長谷川 巖)

クイロカワザンショウガイ

中腹足目カワザンショウガイ科
Assiminea castanea (Westerlund)

福井県カテゴリー 県域絶滅

環境省カテゴリー



種の特性

殻高4.2mm，殻径2.2mm，巻数は7回．濃い黄褐色から黒褐色の殻は長円錐形で小型．縫合の下部に細かい溝がある．体層周縁に弱い角があり，卵形の殻口外縁は薄く丸い．老成すると，全体的に殻表が侵食される．

生息状況

本州，四国，九州の大きな河川の河口域に分布．カワザンショウガイより，高塩性でより下流域の転石の裏面や礫間に潜んでいる．

県内では，四ヶ浦，若狭和田の採集記録があるが，1985，1999年の第一次・第二次「福井県みどりのデータバンク」調査でも確認されていない．

存続を脅かす要因

河口域の埋め立て，河川護岸改修工事などによる生息域の直接的改変，および底質の変化や生活廃水の流入等による水質悪化が主な絶滅要因と考えられる．

参考文献

窪田彦左衛門．1962．福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録．242pp．福井市立郷土博物館．

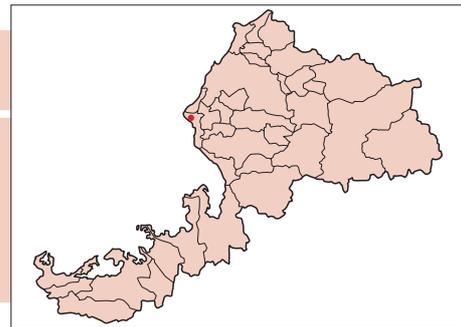
増田 修．1994．兵庫県産陸水性貝類 ．兵庫県陸水生物44：5-11．

ヘソカドガイ

中腹足目カワザンショウガイ科
Paludinella japonica (Pilsbry)

福井県カテゴリー 県域絶滅

環境省カテゴリー



種の特性

殻高5.2mm，殻径3.5mm，巻数6.0回の殻は，ヘソカドガイ類の中では一番小さい．円錐形卵型で光沢のある茶褐色．体層が膨らみ周縁に弱い竜骨状の角がある．硬質堅固．軟体は漆黒褐色，触角が長く基部に眼がある．

生息状況

房総以西の本州，佐渡，九州，屋久島に分布．海岸の打ち上げ物や，海岸線上部の灌木の根元の礫間に生息する．

県内では，四ヶ浦産の標本が福井市自然史博物館に残っているが，生息地は第一次・第二次の「福井県みどりのデータバンク」調査時にも県内で確認できていない．

存続を脅かす要因

海岸線の埋め立てや海岸道路建設，護岸工事等で，生息地そのものの消失が最大の要因である．

参考文献

福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．163pp．福井県．

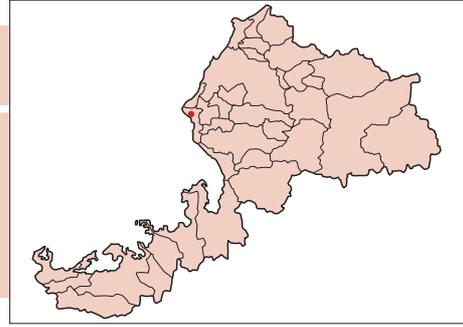
窪田彦左衛門．1962．福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録．242pp．福井市立郷土博物館．

ウスイロヘソカドガイ

中腹足目 カワザンショウガイ科
Paludinella stricta (Gould)

福井県カテゴリー 県域絶滅

環境省カテゴリー



種の特性

殻高6 mm, 殻径4 mm, 巻数6回の殻は, 円錐形卵型で光沢のある黄褐色。殻頂部は鋭い。体層が膨らみ周縁には弱い角がある。硬質堅固。

蓋は薄質, 卵形で淡黄褐色で小旋型。

生息状況

本州, 九州や奄美以南の海岸の打ち上げ物や, 波しぶきのかかる海岸線上部の灌木林のレキ間や洞窟の入口等に生息する。県内では, 越前町四ヶ浦産の標本が, 残されているが, 生息は確認できていない。対馬暖流の影響下にあるとはいえ生息環境とは考えにくい。

存続を脅かす要因

海岸線の埋め立てや海岸部の道路建設などによる生息地の直接的改変が主な要因である。

参考文献

窪田彦左衛門. 1962. 福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録. 242pp. 福井市立郷土博物館.

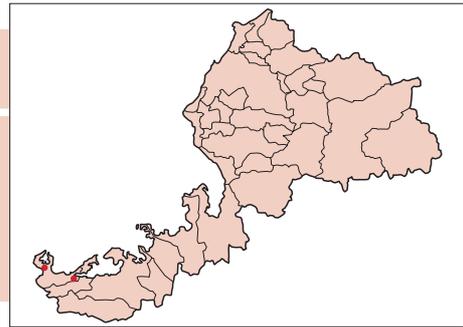
福井県. 1998. 福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録. 141pp. 福井県.

ヤマクルマガイ

中腹足目ヤマクルマガイ科
Spirostoma japonicum japonicum (A.Adams)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー



種の特性

殻高6 mm前後, 殻径12前後mm, 巻数4.5回の硬質な円盤型の右巻の陸産貝類。殻は平滑でやや光沢のある黄褐色。体層がよく膨らみ縫合は深い。殻口は塔状に突出した蓋がある。臍穴は大きくすり鉢状。軟体部は灰褐色。

生息状況

中部以南の本州, 四国, 九州に普通に分布。県内では, 過去に大飯町以西の青葉山産, 大飯町満願寺産が多数標本として残されていたが, 第二次「福井県みどりのデータバンク」調査で, 青葉山のタブノキ, ウバメガシ等の樹間の落葉下に生息する死殻と数個体を確認したのみである。希産となっている。

存続を脅かす要因

多少の乾燥には耐えるが, 林道建設, 登山道整備等による生息環境の改変, 極度の乾燥化が主な減少要因である。

参考文献

東 正雄. 1985. 原色日本陸産貝類図鑑. 333pp. 保育社.

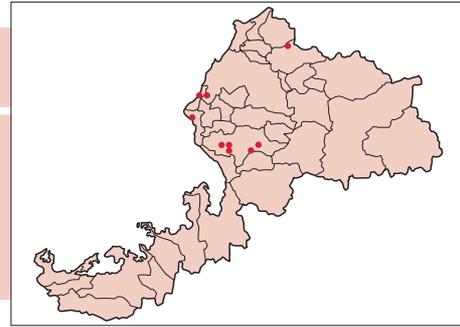
福井県. 1998. 福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録. 141pp. 福井県.

ニクイロシブキツボ

中腹足目イツマデガイ(カタヤマガイ)科
Fukuia kurodai kurodai Abbott et Hunter

福井県カテゴリーー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリーー 準絶滅危惧



種の特性

殻高9～10mm，殻径5mm前後，巻数は6回．殻は卵状の円錐形，光沢のある赤褐色(肉色)で厚質堅固．老成すると黄褐色になることが多い．

殻表には弱く不規則な成長脈があり，螺旋彫刻がやや明瞭に現われる．殻口は黒く縁どられ，軟体部は黄褐色．触覚はごく短くその先端に眼がある．

小型の近似種のフクイシブキツボは同種地方型である．

生息状況

青森県から兵庫県北部までの日本海側に局所的に分布．県内では1985年時には10カ所に生息が確認されたが，林道整備や公園化のため生息地が改変され，丸岡町竹田と越前町梅浦の2カ所のみとなっている．

存続を脅かす要因

山間の渓流の滝の飛沫のかかる周囲や，岩盤や礫場の湧水がにじみでる所に生息するため，土石採取や林道拡張整備の影響で，生息地が改変されることと乾燥化が主な減少要因である．

参考文献

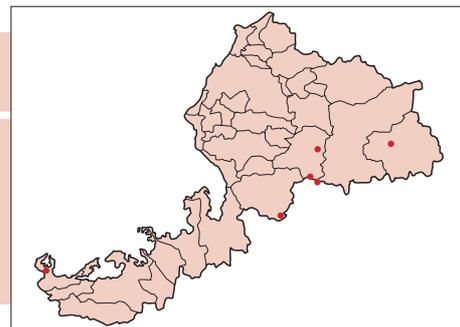
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

キョウトギセル

柄眼目キセルガイ科
Mundiphaedusa kyotoensis (Kuroda)

福井県カテゴリーー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリーー 絶滅危惧 類



種の特性

殻高約15mm，巻数約10回の円筒状紡錘形の陸産巻貝．殻は紡錘形で，色は白味がかった黄褐色．殻口は白色で前縁，著しく前方に突出する．軟体部は淡黄白色から淡茶色．

暖地性植生の強い青葉山東岳や嶺北のブナ自然林の腐葉土の堆積したところやチシマザサ群落の落葉下に生息する．卵生．

生息状況

京都府，滋賀県，三重県，岐阜県などに数地点に局所的に分布．県内では過去に池田町部子山，今庄町夜叉が池周辺でも分布していたが，現在では，池田町冠山，今庄町高倉峠，高浜町青葉山東岳の3カ所のみ生息が確認されている．激減している．

存続を脅かす要因

限定された生息地のブナ林の落葉下に生息するので，生息地周辺の林道整備や樹林の伐採等に伴う，林床の乾燥化による生息環境の改変が存続を脅かす．

参考文献

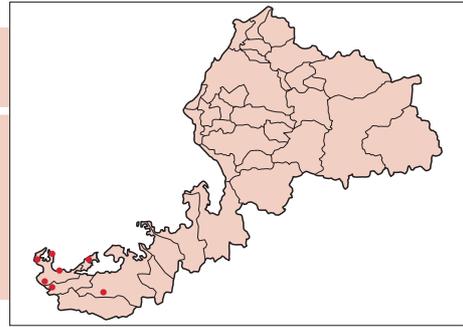
福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

コベソマイマイ

柄眼目ニッポンマイマイ(ナンバンマイマイ)科
Satsuma myomphala myomphala (Martens)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー



種の特性

殻高約30mm，殻径44mm，巻数約6回の淡黄色の大型の陸産貝。殻は螺層が膨らみ縫合は深い。体層周縁に1本の黒褐色色帯があるが，他の螺層では縫合に添う。臍穴は老成個体では軸唇縁で閉じる。軟体部は淡赤褐色地に黒褐色の雲状模様がある。地表性。

生息状況

関東以西の本州と四国，九州に分布。県内では，昭和8年頃は，若狭の大飯町以西の平野部の山麓帯に普通に生息していたが，現在では局所的に生息している。第二次の「福井県みどりのデータバンク」の調査では，生息確認地点は変わらないが，激減して，生貝は採集できなかった。やや乾燥気味な落葉樹の根元や落葉の下に生息する。

青葉山麓周辺は多産地であったが，絶滅が危ぶまれるまでに激減している。

存続を脅かす要因

大規模な宅地造成，林道等の道路や砂防ダム建設等による生息地の改変が主な減少要因である。

参考文献

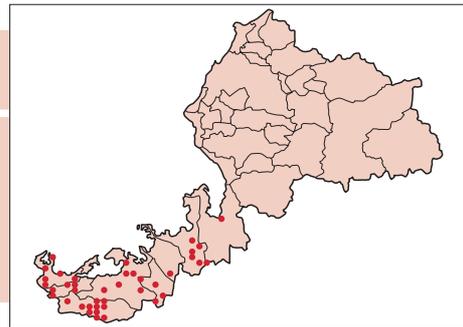
福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

アツブタガイ

中腹足目ヤマタニシ科
Cyclotus campanulatus campanulatus (Martens)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー



種の特性

殻高10mm，殻径14mm，巻数5回のヤマタニシに似て硬質低円錐形の中型右巻の陸産貝類。各螺層の膨らみは強く，臍穴は大きい。殻皮は平滑で光沢が強く，体層周縁の下部に濃色帯があり，斑紋もある。石灰質の蓋は多旋型。

軟体部は不規則な黒い縞模様があり，触覚は漆黒色。

生息状況

埼玉県と本州中部以西に分布。温暖なやや乾燥した落葉樹木の落葉下に生息する。県内では嶺南地域に限定され，特に低山の山麓帯のやや乾燥した落葉下にしか生息しない。

存続を脅かす要因

多少の乾燥には耐えるが，林道，道路建設，砂防ダム，公園整備等による生息環境の改変，極度の乾燥化が主な減少要因である。

多産地であった大飯町の川上神社周辺は絶滅に近い。

参考文献

福井県．1985．福井県の両生類・爬虫類・陸産及び淡水産貝類目録．163pp．福井県．

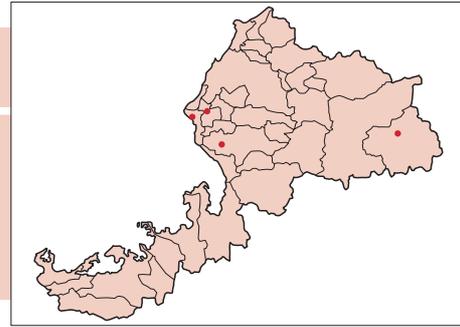
福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

ヤマメタニシ

中腹足目イツマデガイ科
Blanfordia integra Pilsbry

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



種の特性

殻高5.5mm，殻径3.2mm，巻数5回の陸産貝類。殻は薄く小型で灰褐色の螺塔が細長い円錐形卵型。口唇は薄い黒褐色となり広がる。蓋はオオムガイ型小旋型。軟体部は薄い茶褐色。滝や沢の飛沫のかかる斜面のレキの間や落葉下に生息する。

生息状況

秋田県から島根県の日本海側の本州に分布。県内では、過去に和泉村朝日，越前町六所山，武生市鬼ヶ岳に生息していたが，現在では激滅している。越前町梅浦と2000年6月に新規に生息が確認された池田町田代の2カ所だけである。

存続を脅かす要因

林道整備，公園化等による生息環境の改変と樹木伐採による乾燥化が主な要因である。

参考文献

福井県．1985．福井県の両生類・爬虫類・陸産及び淡水産貝類目録．163pp．福井県．

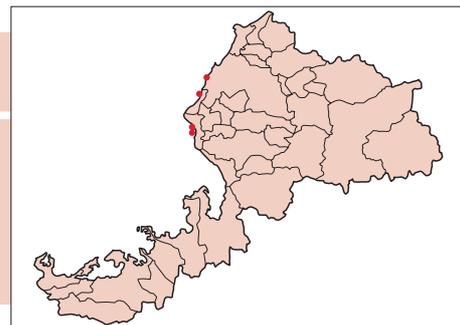
福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

オオウスイロヘソカドガイ

中腹足目カワザンショウガイ科
Paludinella tanegashimae (Pilsbry)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー



種の特性

殻高7.8mm，殻径5.2mm，巻数6.5回の殻は，円錐形卵型で光沢のある茶褐色。弱い成長脈はあるが，彫刻や模様はない。体層が膨らみ周縁に弱い竜骨状の角がある。硬質堅固。

軟体は黒褐色，触覚の基部に眼がある。

生息状況

本州，九州の海岸の打ち上げ物や，波しぶきのかかる海岸線上部の灌木の根元のレキ間や洞窟の入口等に生息する。県内では，越前町の呼鳥門や大穴に生息するが激滅している。河野村甲楽城の洞窟では絶滅している。

存続を脅かす要因

海岸線の埋め立てや海岸部の道路建設等による生息地の直接的改変が主な要因である。

参考文献

窪田彦左衛門．1962．福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録．242pp．福井市立郷土博物館．

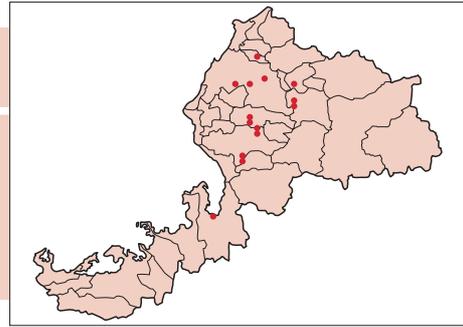
福井県．1998．福井県の陸水生物．203pp．福井県．

ナガオカモノアラガイ

柄眼目オカモノアラガイ科
Oxyloma hirasei (Pilsbry)

福井県カテゴリーー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリーー 準絶滅危惧



種の特性

殻高20mm，殻径13mm，巻き数3回の長卵型の陸産貝類．淡黄褐色の殻は薄質半透明のため，軟体部が透けて見える．モノアラガイに似るが，殻口がモノアラガイより小さく，殻も細長いので識別は容易．黄白色の軟体部は殻に納まらないため，乾燥に耐えられず，大きな河川や堤内地のヨシやアシ原・湿地にしか生息できない．

生息状況

本州，九州に分布．県内では河川の堤内地や水田の畦周辺等の草木の繁茂した極めて湿潤な環境に生息していた．現在では，浅水川の中流域の水辺でしか確認されていない．生息確認地が激減している．

存続を脅かす要因

湿潤な河川のアシ原や休耕田等に生息するので，水路の護岸工事による植物の除去や，農薬の多量の使用による生息環境の改変が主な減少要因となっている．

参考文献

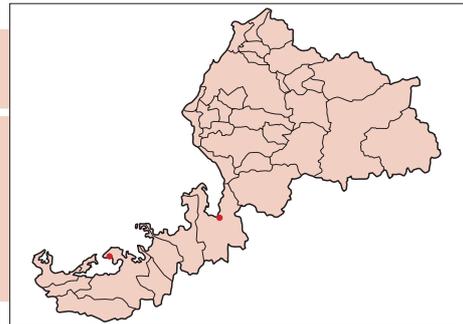
福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

クチマガリスナガイ

柄眼目スナガイ科
Bensonella plicidens (Benson)

福井県カテゴリーー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリーー 準絶滅危惧



種の特性

小型で殻高2.3mm，殻径1.6mm，巻数5回の微小な陸産巻貝．殻口は円形でラッパ状に広がり，内側に多くの歯状突起がある．1属1種で近似種は無い．

石灰岩地帯に生息する固有種．県内産は比較的大型である．

生息状況

群馬県，東海，近畿地方，山口県，四国，九州の石灰岩地帯に分布．

県内では，敦賀の金ヶ崎城址公園の石灰岩地帯の落葉の堆積した所と，小浜の堅海神社の石垣の間と，タブの根元の細粒の土砂混じりの腐葉土の堆積した所で生息が確認された．両生息地とも絶滅の危機にある．

存続を脅かす要因

特異的な石灰岩地帯で主に生息しているので，地域の開発，人為的な整備による生息環境の改変が主な要因である．福井県では，生息地が限定されている．

参考文献

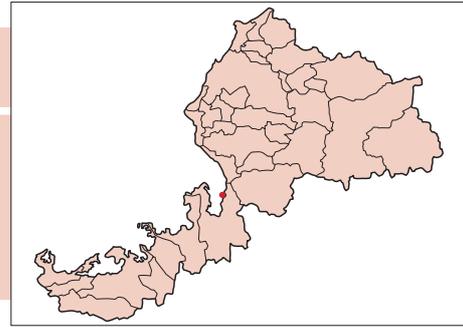
福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

ナタネキバサナギガイ

柄眼目キバサナギガイ科
Vertigo eogea eogea Pilsbry

福井県カテゴリーー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリーー 絶滅危惧 類



種の特性

敦賀市杉津産の標本によれば、殻高2mm、殻径1.2mm、巻数3.5回の淡褐色の微小陸産貝類。円筒形で赤みがかった淡褐色。螺頂は円く、体層は次体層の1.5倍もあり、縫合は深く、各螺層は膨らむ。殻口は半月形。

生息状況

北海道、本州、四国に分布。アシやガマが繁茂した平野部の休耕田や湿原や柑橘類の木の根元の落葉やササ藪の根元に生息する。

県内では、窪田彦左衛門により1953年4月2日に敦賀市杉津で採集された標本が唯一の福井県産記録である。以降、生息確認ができていない。

存続を脅かす要因

里山の棚田の湿地や休耕田、湿潤な林床に生息するため、土壌改良剤や農薬散布による生息環境の改変が主な減少要因である。

参考文献

福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

湊 宏．1988．日本陸産貝類総目録．294pp．日本陸産貝類総目録刊行会．

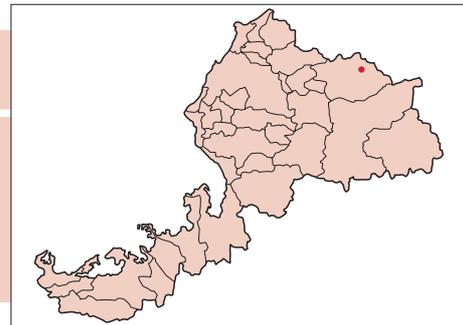
窪田彦左衛門．1962．福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録．242pp．福井市立郷土博物館．

ヤマトキバサナギガイ

柄眼目キバサナギガイ科
Vertigo japonica Pilsbry & Hirase

福井県カテゴリーー 絶滅危惧 類

環境省カテゴリーー 絶滅危惧 類



種の特性

窪田標本によれば、殻高1.7mm、殻径1mm、巻数4回の微小陸産貝類。殻は平滑で光沢がある淡褐色の円筒形。半月状の殻口には4本の歯状突起があるのが特徴である。

生息状況

北海道、本州、四国に分布。県内では、窪田により1952年に勝山市北谷で生息確認後、長年生息が確認されず、1999年8月22日に、池田町東青の自然林の溪流沿いの、やや乾燥した斜面の小石混じりのササの根元で2個確認できた。

存続を脅かす要因

林道の整備、道路拡張等による生息環境の改変、生息地の樹木の伐採による乾燥化が主な要因である。

参考文献

福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

東 正雄．1982．原色日本陸産貝類図鑑．333pp．保育社．

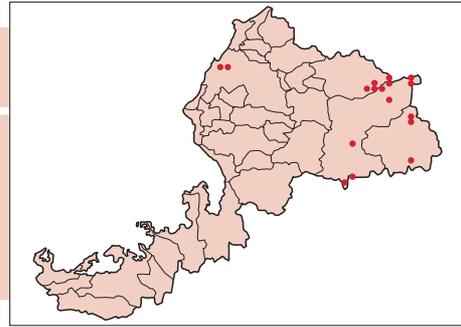
窪田彦左衛門．1962．福井市立郷土博物館所蔵 貝類標本目録．242pp．福井市立郷土博物館．

トノサマガセル

柄眼目キセルガイ科
Mundiphaedusa ducalis (Kobelt)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



種の特徴

殻高35mm，殻径9mm，巻数12回につやつやした光沢のある黄褐色で美しい大型の紡錘形の陸産巻貝。殻口は洋梨形で，乳白色の滑層でおおわれる。

軟体部は暗褐色(アメ色)。卵生。

生息状況

白山山系の北陸から岐阜県の山岳地帯に局所的に分布。

県内では，丹生山地の越知山の生息地は開発により消滅。奥越の海拔800m級以上の経ヶ岳，願教寺山，能郷白山，平家岳のブナ原生林にしか生息していない。激減している。

存続を脅かす要因

林道開発，森林整備等による落葉広葉樹林の伐採および改変が主な要因である。

参考文献

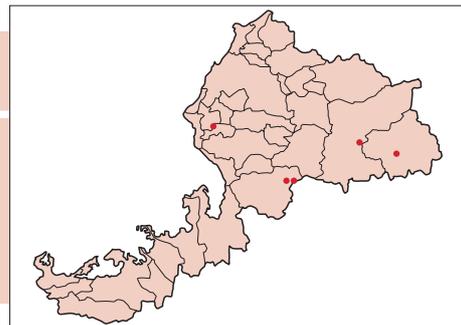
福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

ヤマコウラナメクジ

柄眼目オオコウラナメクジ科
Nipponolimax monticola Yamaguchi & Habe

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



種の特徴

軟体はやや青味がかかった黒色で，頭部，触覚は漆黒色で光沢がある。体長30mm，体幅7.5mm，体高9mm。背中の楕は大きく縦10mm，横6mmもあり，その後方は著しい稜角がある。夜行性。卵生。

生息状況

近畿以西の本州，四国に分布。

本県では，今庄町高倉峠や大野市の伊勢橋周辺，仙翁谷の山地と，新たに宮崎村江波の杉植林地の湿潤な落葉下で確認されている。局所的に生息する種と考えられる。個体数は極めて少ない。

存続を脅かす要因

乾燥に耐える軟体構造がないので，森林伐採，林道整備等により，生息地の林床の乾燥化，沢の湿地の減少によって地域単位で絶滅するのが主な減少要因である。

参考文献

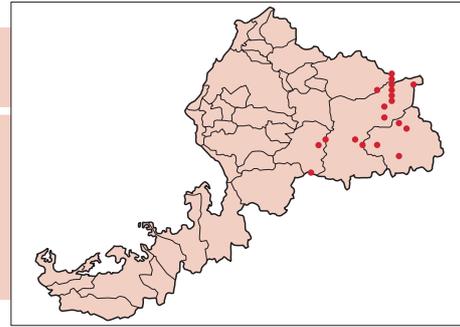
福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

ミドリベッコウ(カガベッコウ)

柄眼目ベッコウマイマイ科
Bekkochlamys kagaensis (Pilsbry & Hirase)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー



種の特徴

殻高12mm，殻径17mm，巻数5回の円形の陸産貝類。殻は緑色を帯びた黄褐色(ベッコウ色)薄質で光沢の強い半透明。殻表には細かい成長脈が存在する。軟体部は黒褐色で殻に入りきらない。

日光，秩父，箱根，天城山に分布するカントウベッコウの亜種。

生息状況

白山山系に分布。県内も白山山系の和泉村の上打波や大野市の智奈洞谷等の一部の亜高山帯に生息する。冠山や仙翁谷等は激減して絶滅に近い。

存続を脅かす要因

水辺や湿地，日陰のササ群落の湿潤な落葉下にしか生息できないので，林道等の整備，沢や水辺の落葉広葉樹の伐採による生息地の乾燥化が主な要因である。

参考文献

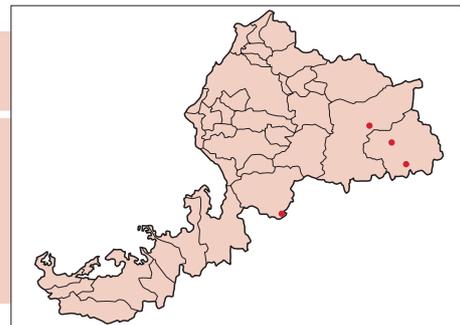
福井県．1999．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

カムリレンズガイ

柄眼目ベッコウマイマイ科
Otiosiopsis kanmuriyamensis Azuma

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 情報不足



種の特徴

殻高約6mm，殻径約9mm，巻数約5回の光沢のある暗黄褐色の陸産貝類。殻の外縁が鋭くとがって，横断面は凸レンズ状に見えるのが特徴。軟体部の背面はうすく赤味のあるアメ色。側面と足部は白色。

海拔約800～1,000m前後の山地帯のブナ林の倒木下等に生息するが，詳しい生態や生活史等多くの点で不明。

生息状況

他県では岐阜県藤橋村，板取村で確認記録があるが，県内では大野市の荒島岳，和泉村鷲鞍岳や平家岳，今庄町夜叉が池周辺でも生息が確認されているが希少種である。

存続を脅かす要因

林道等の整備やスギ，ヒノキの植林による広葉樹の伐採，マニアの採集圧などが主な要因である。残り少なくなったブナ林の伐採は本種の存続を脅かす。

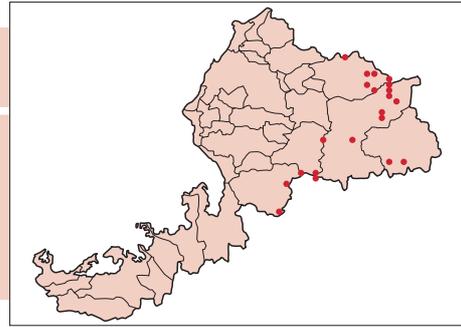
参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

エチゼンビロウドマイマイ

柄眼目ニッポンマイマイ(ナンバンマイマイ)科
Nipponochloritis echizenensis (Pilsbry & Hirase)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー



種の特徴

殻高15mm，殻径19.0mm，巻数4.5回の濃い暗褐色の丸みを帯びた円錐形の大型の右巻陸産巻貝。表面には硬い羽毛状の短い鱗片状突起が斜めに規則的にはえ、より細かく絹光沢である。

軟体部は暗黒色，模式産地は武生市大虫町である。

生息状況

北陸地方の富山，石川，福井に分布する。本県では，過去には県下一円の里山の落葉広葉樹の落葉下に生息していたが，現在では奥越の山岳地にしか生息しない。個体数が急激に減少している。

模式産地の武生市大虫町地域では，絶滅している。

存続を脅かす要因

乾燥に弱く，山地の湿潤な所に生息するので，林道開発，森林伐採等による乾燥化と生息環境が改変されているのが，主な要因である。

参考文献

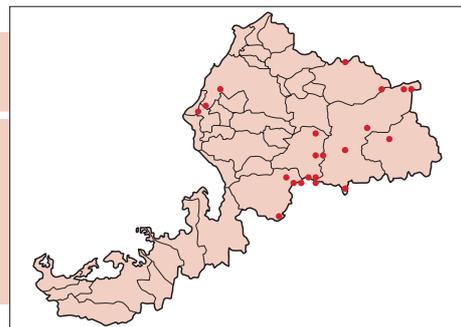
東 正雄．1982．原色日本陸産貝類図鑑．332pp．保育社．

福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

ココロマイマイ

柄眼目ニッポンマイマイ(ナンバンマイマイ)科
Satsuma cardiostoma (Kobelt)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類
環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



種の特徴

殻高約14mm，殻径15mm，巻数約6回の黄褐色から茶褐色で，丸みを帯びた円錐形の陸産貝類。殻表は平滑で光沢がある。ブナの倒木下に生息する。

軟体部は茶褐色であり暗褐色の小斑点が多数散在する。

生息状況

主として近畿地方北東部の分布。県内では奥越山地や南条山地の亜高山帯ミズカラ，ブナ帯に局所的に生息するが，生息環境が悪化している。非常に個体数や生息地が減少し，種の存続への危機が強まっている。

存続を脅かす要因

林道開発や杉・桧植林および森林伐採によるブナ等の自然度の高い落葉広葉樹林の減少の影響を直接に受けているのが主な要因である。

貝類収集家等の過度の採集や，登山者等の増加による生息地の環境改変も減少の一因である。

参考文献

福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

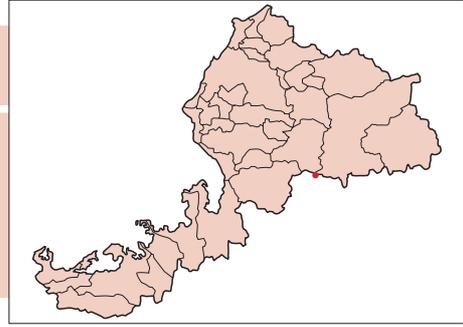
カンムリケマイマイ

柄眼目オナジマイマイ科

Aegista kanmuriyamensis M. Azuma & Y. Azuma

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 情報不足



種の特性

殻高約7.5mm，殻径約9.0mm，巻数5.5回の円錐形の陸産巻貝．殻は光沢のある淡い茶褐色から濃茶褐色で，不規則な白から灰色の火炎彩模様がある．また，密に細い微細な短毛状の凹凸突起がある．突起は成長と共に脱落する．

軟体部は薄いあめ色ないし茶色で黒い斑点があるものからかなり散在する個体までである．生息確認個体数が極端に少なく，生態や生活史の詳細は不明．

生息状況

日本固有種で，岐阜県藤橋村との県境の冠山と，それに隣接する金草山の裾野を走る高倉林道のブナ ユスギ ヨウラク チシマザサ群落が優先するブナ林の倒木下のみ生息する．生息確認状態からやや乾燥に強い種とも考えられる．

存続を脅かす要因

生息地がブナ林に局限されているため，生息地の林道開発，樹木の伐採による環境変化が存続を脅かす要因である．登山者，山野草の採集者等の人圧も脅威となる．

参考文献

福井県．1999．福井県のすぐれた自然 動物編．452pp．福井県．

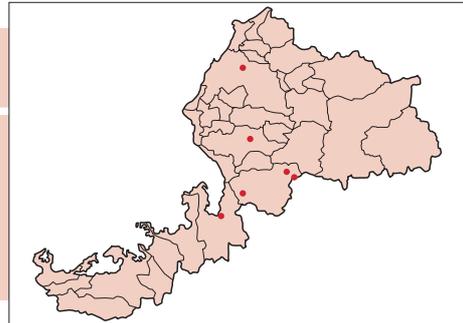
エチゼンケマイマイ

柄眼目オナジマイマイ科

Aegista omiensis (Pilsbry)

福井県カテゴリー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 類



種の特性

殻は小型で，殻高3.5mm，殻径7.5mm，巻数4.5回の暗褐色の著しく低い円錐形の右巻陸産巻貝．殻表が粗く，表面には硬い三角形の短い鱗片状突起が密に生えている．オオミケマイマイの地方型．

軟体部は暗褐色．生息地では異常増殖することがある．

生息状況

滋賀県や北陸地方に分布するが，本県では，県下一円の里山の落葉広葉樹の落葉下に局所的に生息する．過去に10地点で生息が確認されている．しかし，現在5カ所の生息地が改変され絶滅している．他の生息地でも個体数が急激に減少している．

存続を脅かす要因

里山の山麓帯に生息するので，土地造成，農地整備，道路整備等のため生息地が改変される可能性が高く，このことが本種の存続の脅威となる．

参考文献

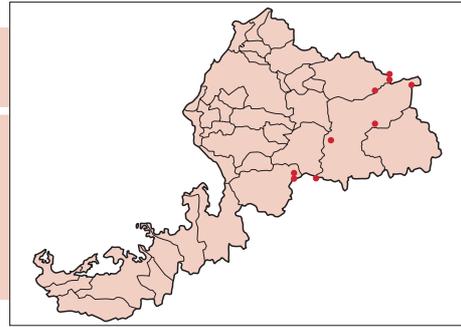
福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

ハクサンマイマイ

柄眼目オナジマイマイ科
Euhadra latispira latispira (Pilsbry & Hirase)

福井県カテゴリーー 県域絶滅危惧 類

環境省カテゴリーー 絶滅危惧 類



種の特性

殻高30mm，殻径50mm内外，巻数6.5回の大型右巻の陸産貝類．ツルガマイマイの山地型で，殻の色は黄緑から黄褐色から濃い赤褐色と変異が多く，光沢が強い．殻表面には，粗い成長脈があるのが特徴．軟体部は赤褐色から橙褐色であり，背中央部に幅広い黒い縦条がある．色帯(体層の黒褐色の帯)は0204型が多い．

生息状況

石川県の白山山系に分布．県内では，亜高山帯1,000m以上のダケカンバ，チシマザサ，ネマガリザサ等の群落地域に生息する．極めて希産種．過去に勝山市の赤兎山，大長山，経ヶ岳，大野市の願教寺山，荒島岳，冠山，高倉峠に生息記録がある．現在では生息確認は非常に困難である．

存続を脅かす要因

山岳地帯の良好な自然環境に生息する種なので，山岳地の林道等に伴う落葉広葉樹の伐採による生息環境の改変が本種の生存を脅かす主な要因となる．

参考文献

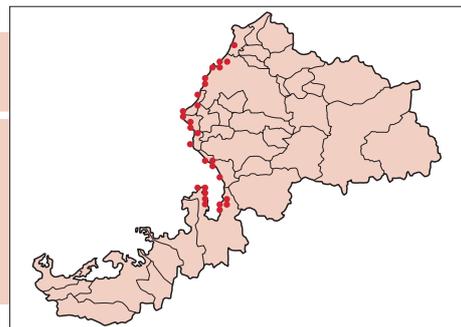
福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

ヒメオカマメタニシ

中腹足目イツマデガイ科
Blanfordia japonica simplex (Pilsbry)

福井県カテゴリーー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリーー 準絶滅危惧



種の特性

殻高8.5mm，殻径5mm前後，巻数は6層．殻は長卵状でやや硬質堅固であるが胎殻は丸くなる．殻色は黄褐色から栗褐色で光沢がある．各層はよく膨らみ，縫合は深い．エチゼンイツマデガイは同種異名．

生息状況

青森県から山形県，石川県，福井県，兵庫県の各沿岸地方に分布．

県内では，日本海側の三国から敦賀まで日本海や敦賀湾を望む海岸線際の灌木林に局所的に点在して生息しているが，急激に生息域を減少させている．内陸部には生息していない．

存続を脅かす要因

温暖な海岸近くの灌木の林床に生息するので，道路建設，宅地造成のため，生息地が改変されているのが主な要因である．

参考文献

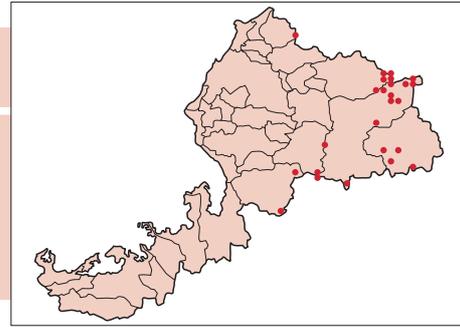
福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．

クイロキセルガイモドキ

柄眼目キセルガイモドキ科
Mirus andersonianus (Moellendorff)

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



種の特性

殻高22mm，殻径8mm，巻数7.5回の右巻中型の陸産貝類。殻は濃い栗色の光沢があり，全体が円錐形で殻口は卵形。唇縁は白い滑層となり反転する。殻表面には顕著な網目状彫刻がある。

軟体部は暗黒色。乾燥には殻口に白い膜を張って耐える。

クイロキセルガイモドキで統一されているが，県内では唇縁が赤紫色の地方型エチゴキセルガイモドキ系の個体が多い。個体数は激減している。

生息状況

北海道から鳥取県までの主として日本海側に分布。県内では奥越山地から南条山地の海拔800m級以上のブナやミズナラ，イタヤカエデ等の林床の倒木下や落葉下に生息する。

存続を脅かす要因

落葉広葉樹からなる古木を含む林床に生息するので，森林伐採や林道等の整備による生息地環境の改変が主な要因である。

参考文献

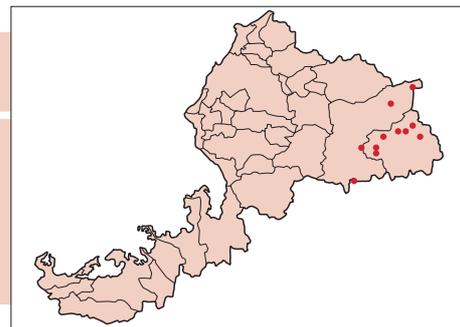
福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

オクガタギセル

柄眼目キセルガイ科
Mundiphaedusa dorcas (Pilsbry)

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 準絶滅危惧種



種の特性

殻高35mm，殻径6.5mm，巻数11回の陸産貝類。黄褐色の殻は，弱い光沢のある紡錘形。殻表に線条がある。主襞は長く，上腔襞より下腔襞は短い。

軟体部は淡褐色で卵生。

生息状況

関東山岳から白山山系の山岳地に生息。

県内では和泉村，大野市の山岳地帯で局所的に分布するが，その生息産地の個体数も激減している。

存続を脅かす要因

森林整備や林道整備等のため，落葉広葉樹林が伐採され，生息地が改変され乾燥化したことが主な要因である。

参考文献

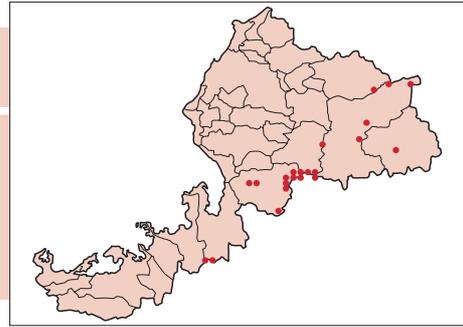
福井県．1989．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．163pp．福井県．

オオコウラナメクジ

柄眼目オオコウラナメクジ科
Nipponarion carinatus Yamaguchi & Habe

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 準絶滅危惧



種の特徴

軟体は褐色で淡い褐色斑点がある。体の前方，頭部，触覚は黒くて光沢がある。体長35mm，体幅10mm，体高9mm。背中の楕は大きく縦12mm，横8mmで，その後方は著しい稜角がある。夜行性。卵生。

生息状況

本州，四国，九州に分布。県内では亜高山帯への落葉広葉樹林帯の落葉下に局所的に生息する。敦賀市三国山，南条山地に局所的に生息する。いずれも数個体の確認なので，生息数は極めて少ない。生活史の詳細は不明。

存続を脅かす要因

軟体が乾燥に耐える構造になっていないので，森林伐採や林道整備による林床の乾燥化，沢の湿地の減少によって地域単位で絶滅するのが主な減少要因である。

参考文献

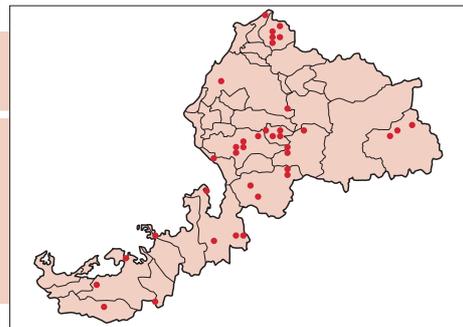
福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

ケハダビロウドマイマイ

柄眼目ニッポンマイマイ(ナンバンマイマイ)科
Nipponochloritis fragilis (Gute)

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー 情報不足



種の特徴

殻高12mm，殻径18mm，巻数約5回の淡黄褐色の陸産貝類。殻は縫合が深く，体層が急激に膨らむ扁平な球状巻貝。殻は薄質で，殻表には先端がガギ状の短毛状の殻皮が規則的に密生してビロード状になる。口唇は薄い。

軟体部は黒色で光沢が強い。軟体部が殻に入りきらない。

生息状況

北陸，近畿，中国に分布。県内では低山地帯から丘陵地の湿潤な倒木の下や落葉下に生息し，嶺北地域の低山の山麓帯と嶺南山地には多く生息する。

存続を脅かす要因

生息地が宅地造成，墓地整備，道路建設など人的開発が進められやすく，自然度の高い落葉広葉樹林の減少の影響を直接に受け，また，生息地の乾燥化が主な減少要因である。

参考文献

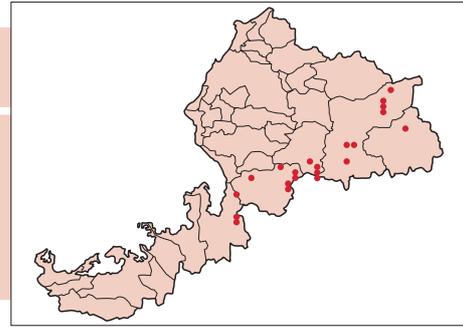
福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．

コガネマイマイ(オカノマイマイ)

柄眼目オナジマイマイ科
Euhadra sandai sandai (Kobelt)

福井県カテゴリー 県域準絶滅危惧

環境省カテゴリー



種の特性

殻高約21mm，殻径41mm，巻数約6回の螺塔が著しく低い扁平な大型の陸産巻貝。殻皮に黒褐色の色帯を持ち，成長脈に添って鮮黄色の火炎彩模様が著しく現われ虎模様となる。臍穴は広く緩やかで浅い。軟体部は黒灰色で背面上に黒縦帯がある。樹上性。卵生。

生息状況

オカノマイマイの地方型である。北陸から近畿北部に分布。県内では，平野部のナミマイマイとは住み分け，海岸地帯から山地まで広範囲に局所的に生息する。著しく減少している。

存続を脅かす要因

都市化の影響を受け，山麓帯の生息地は激減。宅地造成，林道開発等による自然度の高い落葉広葉樹林の減少の影響を受けているのが主な要因である。

敦賀市の1生息地では，マニアの採集圧により激減している。

参考文献

福井県．1998．福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録．141pp．福井県．